

足尾の 産業遺跡

「足尾の産業遺跡」

シリーズ掲載にあたって

当町の歴史は、足尾銅山の栄枯盛衰とともに歩んできた歴史でもあります。

かつて、日本の産業発展に大きな貢献を果たし、日本の銅山となりました。

その背景には、画期的な設備と卓越した技術の導入があり、また、先人たちの汗と涙の結集であったことも歴史の一ページであります。

一方、鉱毒事件、明治四十年の暴動事件、大正八年の大争議事件や、中国人・朝鮮人連行による強制労働など、社会的に大きな問題も起こっています。

いずれにしても、足尾銅山が近代産業史に特筆される事跡を残したことは、まさに壮大であったといえます。

足尾銅山閉山後、四半世紀を過ぎた今、改めて断片的ですが、本誌に足尾銅山発展の

過程で導入された歴史的価値のあるものを「足尾の産業遺跡」（現存しないものを含む）として掲載し、歴史の一端に触れてみます。

日本で最初に架けられた

細尾索道（第一索道）

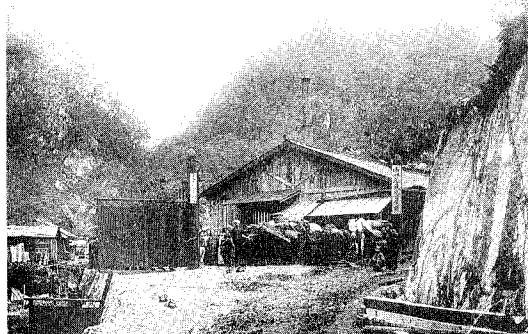
索道とは、ロープウェイのこと、中空に架けられたことから架空索道と称され、足尾では「鉄索」と言い習わしてきた。

その架空索道が日本で最初に架けられたのが、今日の近代索道の常識からすると、明治二十三年（一八九〇）、細尾峠に足尾銅山が架けた細尾索道（第一索道）地蔵坂〜細尾間である。地蔵坂は足尾側

の登り口である。古河市兵衛が明治十年に足尾銅山の経営に乗り出した頃の道路は、狭隘な細尾峠路を越えて日光に至るか、群馬県境の峻険な小名峠・大名峠を越え沢入に至るかであった。古河市兵衛は、斬新な設備と技術を導入するとともに、旧態依然の経営方法を改善しながら、明治十年にはわずかに四十六トンの産銅量を徐々に

増大し、明治二十二年には四千八百三十九トンにもなっていった。しかし、増大する物資の輸送には従来の道路では対応できないため、道幅を倍の二メートル程にしながら拡張に努めてきたが、輸送能力は問題であった。行き詰まった輸送事情をいかに克服するかは、細尾峠の難所を解決し、日光に結ぶことが不可欠であると考えられていた。なお、この時期宇都宮〜日光間（明治二十三年開通）の日本鉄道が着々と工事を進めていたのである。

◀細尾索道の基地地蔵坂出張所



▶木支柱によって峠越えをする鉄索路



古河市兵衛は、解決策として外国雑誌に紹介された架空索道に着目し、早急に実行に移した。
その索道は、アメリカで考案された「ハリジー式単線固定循環式」というもので、これを導入し、アメリカ人技師を雇い架設した。
なお、同年は「古河橋」、「間藤水力発電所」が設けられるなど画期的な年であった。このとき渡良瀬から地蔵坂間

は軽便馬車鉄道が運転を開始していた。
ついで、明治二十五年に細尾索道（第二索道）栃木平〜細尾間が架けられ、細尾から日本鉄道日光停留場間には牛車鉄道も開通し、一大輸送路が整備され、輸送力の向上により、明治二十六年には、すでに全国第一位の産銅量を誇る日本の足尾銅山となるのである。
以後、細尾索道二線は、足尾銅山の黎明期を支えた輸送の大幹線であったが、大正元年（一九一二）に開通した足尾鉄道に切換えられ、第一・第二索道ともその役目を終えた。

足尾銅山での架空索道の発展は、山奥ならではの所産でもあった。

【諸 元】

○細尾索道（第一索道）

地蔵坂〜細尾

明治二十三年十月竣工

ハリジー式、水平長三七

九〇メートル（斜長三八

九二メートル）、両端高

低差一四四メートル、最

大高低差四九四メートル、

動力 ペルトン水車（十

五馬力）、搬器数八七器

（五六キログラム積バケッ

ト形）、運転速度秒速〇・

九メートル、運搬能力毎

時二・九トン、支柱三〇

基

○細尾索道（第二索道）

栃木平〜細尾

明治二十五年竣工

ハリジー式、水平長四五

三〇メートル（斜長四六

六六メートル）、両端高

低差九二メートル、最大

高低差五四二メートル、

動力 ペルトン水車（一

七馬力）、搬器数 不明

（八五キログラム積皿形）、

運転速度秒速〇・九メー

トル、運搬能力毎時三・

〇トン、支柱数不明

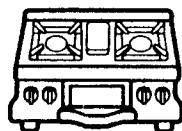
「住宅防火の安全対策」

⑧台所からの出火対策

11月初め、埼玉県で幼児4名が死亡するという、あってはならない住宅火災が発生したのは、記憶に新しいことかと思えます。原因は、平成12年中に発生した、住宅火災出火原因1位の「コンロ」からと思われま

す。台所の防火対策が、住宅火災を防止するうえで、重要なポイントであることは言うまでもありません。台所から発生する火災のおもな原因は、火を使用する頻度が多いこと、家事多忙の中での炊事中のスキ、うっかり消し忘れなどです。

今回は、以上のような原因で発生してしまった火災を初期の段階で防ぐことのできる機器を紹介します。



①消火器

発見後すみやかに消火します。価格は1万円前後です。

②安全装置付きコンロ

立ち消え安全装置や、温度が上昇すると、センサーがガスを遮断する装置付きコンロです。価格は、3万円前後です。

③住宅用火災警報器

煙や熱を感知すると、警報音が鳴ります。価格は、1万円前後です。

④住宅用自動消火装置

コンロ上部が一定温度に達すると、自動的に消火薬剤を放出し消火します。価格は、2万円前後です。

以上のような機器を備え、台所の安全性を高めてはいかがでしょうか。

（問）足尾分署 ☎93-3839